学校名	愛媛県西条市立丹原小学校

活動のテーマ	安全に、落ち着いて、早く逃げる「避難マニュアル」を提案する。
主な教科領域等	教科領域（　総合的な学習の時間　）参加生徒（　６学年　６７　名）
実践期間	平成　２６年　７月　１　日　～　平成　２７年　２月　２７日（変更）
想定する災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 （地震）・ 津波 ・ 台風 ・ 洪水 ・ 河川氾濫 ・ 土砂 ・ その他（　　）

活動報告

１）活動の目的・ねらい

思考力・判断力を育てる防災教育を実践し、危機回避能力を育てることが重要と考える。防災教育の最終目的は、「命を守る」能力と知識・スキルを付けることではないだろうか。そのために、知識やスキル、能力を現実に活かす学習、問題解決学習を組み立てていきたい。

２）実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

命・避難プロジェクト学習

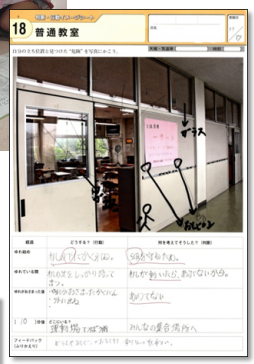
（身に付ける力）
○自分で考え、判断し、行動する力を育てる。
○自分の身近なことについてイメージできる力を育てる。
○自分の命を守る方法を考える力をつける。

フェーズ	学習内容	活動のイメージ
準備	・「判断行動イメージシート」をする。 ・「図上演習シート」をする。 などを通して、自分自身の防災や避難などの課題に気づく。	□ 体験を通して，自分なりの課題発見につなげる。 ・ビデオ，新聞記事などから地震に関係する情報を得る。 ・危機管理課の方の話を聞いて学習する。 ・実際に身近な所（教室・自宅）の危険場所を把握する。 **・避難シミュレーションシートをする。**
ビジョン・ゴール	・災害から命を守るために自分達でできることをしたいという願いをもつ。 ・目的と目標を明確にして、ビジョン（テーマ）、ゴールを決める。 ビジョン（テーマ）：目的（何のために） ゴール：目標（何をするか）	□ ビジョン・ゴールを決める。 ・ビジョン：地震の時に、「安全に」「早く」逃げたい ・ゴール：いざという時に、「安全に、早く」避難できる防災ノートを作る □ チームをつくる。 ・自分は何をしたいかを決め、同じ内容ごとにチームをつくる。（避難する場所、時、条件などを考えさせる。）
計画	・計画を立て、何をすべきかイメージをもつ。	□ チームで計画書・企画書を作成する。 □ 工程表（調べること・すること・分担・準備）をつくる。
情報・課題解決策	・避難訓練で現実の中から情報を得たり課題解決策を見出す 「避難訓練フィードバックシート」 ・チームのテーマにそって聞き取り・本・インターネットなどで情報を収集し，説得力のある確かな情報を得る。	□ 工程表にそって必要な情報を獲得する。 ・本やインターネットで調べる。 ・専門家にインタビューをする。 **・検証実験（「シェイクアウト」による避難訓練）** **・タウンウォッチング** **・避難シミュレーションシートをする。** **・西条市民一斉避難訓練**
制作	・自分たちのテーマにそった対策方法について説得力のある効果的な表現を考えながら，提示資料を作成する	□ プレゼンテーションの提示資料を作成する。 ・必要な情報を出し合い，チーム全体で確認する。 ・提案したいことの「根拠」を明確にする。 ・どんなプレゼンテーションにするか考える。
プレゼンテーション	・，説得力のある効果的なパフォーマンスでプレゼンテーションする。	□ プレゼンテーションを行う。（家族や地域に提案する。） □ 仲間の発表を聞く。 □ アドバイスから，よかったことと課題を明らかにする。
再構築	・自分達のテーマにそった「避難」について，情報の根拠を明らかにし，考えを組み立てて表現する。	□ 再構築する方法を学ぶ。 □ 手順にそって下書きをする。 □ 再構築を行う。 □ プレゼンテーションやこれまでのポートフォリオをもとにして，「防災ノート」としてまとめる。
成長確認	・自分や仲間の成長を確認する。 ・身についた力を自覚する。	□ ポートフォリオを活用する。 □ プロジェクト学習を通して得たことを振り　返り，自分の成長したことを確かめる。（「目に見える成長」「目に見えない成長」） □ 互いの成長を伝え合う。

ポートフォリオの活用

（学習の全過程で使用）

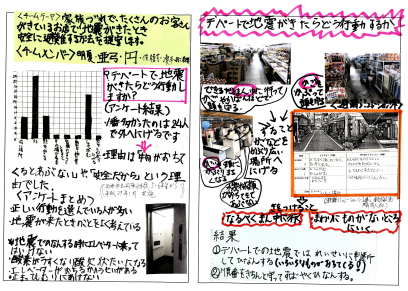
避難シミュレーションシートの活用



シェイクアウト

西条市民一斉避難訓練

タウンウォッチング



「凝縮」・・防災ブック

3）9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。
昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

①地域との連携・・・地域を知る、地域との共同、安全な学校・地域をつくる

②命を守ることを通して、地域を守ることへ発展した。

4）実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

ア　地域との連携の活動を入れることにより、実践内容が具体的になり、活動の広がりがあった。

イ　地域や保護者への啓発になった。・・・地域や保護者の防災意識が高まりつつある。

ウ　学校だけでは、分からないことがある。

エ　地域の見直しや、再発見をすることができた。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

ア　災害のイメージ力を高めることができ、災害を抽象的にとらえるのではなく、災害時前までにすべきこと、災害時にすべきこと、災害後にすべきことなど、具体的に「思考」することができた。

イ　災害を、少なくとも「自分ごと」としてとらえる習慣がつきつつある。

ウ　地域全体をみる「防災」を考えようとしてきた。また、地域のよさを含めて、地域をどうしていくことがよいことかを考えることもできるようになった。

エ　災害時に、どう「判断」すべきかの自分なりの考えを持つようになった。

③教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

ア　教師自身の防災意識と、災害時、児童をどう守るかという「危機管理意識」の高まりがあった。

イ　自分の家庭をどう守るかといった具体的な考えがでてきた。

ウ　自治会や、公民館、防災士協議会が連携して、防災の取組をしようとする様子が出てきた。

5）自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

ア　問題解決学習（「プロジェクト学習とポートフォリオ」の活用・・・鈴木敏恵の助言と指導）の活用

イ　イメージ力を育てる「避難シミュレーションシート」の活用

ウ　学校・地域との連携した取組・・・「市民一斉避難訓練」「タウンウォッチング」等と総合的な学習の時間の活動とのコラボレーション

エ　地域や家庭へのプレゼンテーションと啓発（成果物「凝縮」・・「防災ブック」の作成と配布）

6）実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

ア　防災教育は、学校と地域がコラボレーションした形で行うことが必要である。

イ　市行政等と、連携をしていくべきである。

ウ　防災教育の全体計画や指導計画などの整備が必要である。

7）その他（※特にあれば記述）

ア　学校教育の中で、「防災教育科」とか「リスク教育科」のようなものが必要ではないだろうか。たくさんの時数はいらないが、教育課程に位置づけることが必要に思われる。